

復興庁総合フォーラム

東日本大震災からの復興の現状と取組

日時 2015年3月15日（日）13：30～15：30

場所 東北大学 川内萩ホール

被災地で活動する方々の声

青柳光昌氏（日本財団 ソーシャルイノベーション推進チーム チームリーダー）：

ただいまご紹介いただきました日本財団の青柳です。

今ご紹介いただきましたとおり、私は、日本財団という職場で、阪神淡路大震災以降、国内の大きな災害があるたびに、現地にはNPOと一緒に出動をして、その復旧復興活動に携わってまいりました。

私は、被災地に全て行ったわけではないですけれども、何度か、阪神に始まり、中越の現場ですとか、そういった所も経験させていただいております。

今回の東日本大震災では、4年前、3月13日に支援チームが立ち上がり、そして今日まで、4年間、さまざまな現場で、皆様と一緒に活動を共にしてきております。最初はNPOへの支援だけだったのですが、その後、行政、政府、それから企業との連携事業も、数多く手がけてまいりました。

本日の私のお話は、この経験をもとにして、今までの発表を通じて、いったいこの東北の地域で起きていることは、今後の日本の地域づくりにおいて、何か言えることがあるのではないか、ということをお願いしたいと思います。

ですので、何か取り組みの事例紹介ということではなくて、これまでの事例から言えることを、私の経験上お話しをさせていただき、そのようなお話になっております。

これまで発表された取り組みの全ては、東北の復興を代表していることは、もちろんですが、我が国の地域づくりにおいても、新しい視点をたくさん含んでいると思います。

先ほども大臣のお話がありました、政府でも、地方創成のスローガンのもと、各種施策が展開されようとしておりますが、これらの東北での取り組みは、新しい日本の地域づくりの先端モデルとなる要素がたくさんあると思います。

さて、皆さん、復興とは一体何でしょうか。

よく、「復旧とは違う」と、「復興を目指すんだ」と、震災以前の状態に戻すのでなくて、それよりも上回る状態にしていこう、ということがよく言われておりますが、それでは、その上回る状態って、具体的にどのような状態のことを、皆さん目指しているのでしょうか。地域の住民まで、ほぼ同じようなイメージを持たれているのでしょうか。多分、伺うと、ばらばらなことが多いのだと思います。

私は、この復興のばらばらなイメージ自体は、いけないことだと思っております。批判することもしようとは思っておりません。むしろ、それは健全な状態であると思っております。

す。なぜなら、この「ばらばら」ということを裏返せば、いろんな価値観、つまりいろんな物差しが、皆さんの中にでき始めているからだ、その裏返しだからだ、とっております。

この多様な価値観、いろんな価値観こそが、これからの時代に求められているものではないでしょうか。言ってみれば、一つの価値観、これまでで言うと、経済的や物質的な豊かさや成功だけで、何かを克服しようとしても限界がある、そういったことを、我々に教えていてくれているのだと思います。

災害は、地域のひずみを、一気に顕在化させます。

東北でも、超高齢化、少子化、地場産業の衰退など、この災害で多くの課題に向き合わざるを得なくなったのですけれども、これは何も東日本大震災が引き起こした課題ではありません。その震災以前にも、皆さん認識していたわけですから、これが非常に見えやすく、分かりやすく目の前にあらわれてしまった、というのが現在の状況です。

ただ、こうした課題を、先ほど申し上げたように経済的な成長、経済的な価値だけで克服しようとしても、限界があるのではないのでしょうか。なぜなら、これらの課題は、複合的に絡み合っていて、そして戦後の日本、我々が初めて経験する課題ばかりだからです。

経験したことがない課題に向き合うのに、従来と同じ目標や、同じゴールのイメージ、同じやり方、同じ考え方で克服できることはないと思います。ここにもう1つ、新しい、多様な物差しが必要になってくると思います。両方が必要だということです。

縦軸にこれまでの指標、分かりやすい、たとえば人口やGDP、そして右側に、時間を置いています。

皆さん、よくご存じのように、これが成長曲線だとすると、成長が続いていた時代に災害が起きて、目指すべき復興の姿は非常に分かりやすかったと思います。成長イコール復興の姿だったからです。

しかし、今、下がっています。このタイミングでの災害は、目指すべき復興の姿が、みんな同じにならなくて、実は当然なのです。こうした時代背景もあり、地域のひずんだ事象を突きつけられたこの東北では、最初は多分、意図せず、そして後からは、多分意図的に地域づくりに取り組んでらっしゃいます。

やっっていくうちに、皆さん気づいたのです。「今までと同じ物差しだけではだめだ」ということを。この縦軸の経済的な成長、価値、だけではない、いろんな多様な物差しが、それぞれ地域ごとに、いろんなものがないと、地域に復興は成り立たないということが、皆さん気づき始めたのです。今日の発表は、その代表例と言うことが言えると思います。

では、こういった新しい多様な物差しを、地域ごとにたくさんつくっていくには、どのようにしたらいいのでしょうか。今日の発表をもとに、私なりにキーワードを、3つまとめてみました。

1つ目です。

先ほどから「多様性」という言葉を使っておりますが、ダイバーシティ、多様性です。

本日も、女性の視点や、官と民との連携、若い人が出てきて次の世代、企業との連携、い

ろんな事例が発表されましたけれども、これらはすべてダイバーシティを含んでいる、と言えます。

これまでは、ほぼ1つの視点のみで、地域の事象を捉えて、問題があれば、その1つの方々だけで、もしかしたら解決に向かっていたかもしれませんが、しかし、それはある人たちにとってはベストでも、それに参画していない人たちにとっては、多分、ベストではないです。もしかしたら、それは悪い状況になってしまうかもしれない。それを、そういった状況にはせずに、たとえば女性の視点で見たらどうだろうか、外の人々の視点、企業の視点、若い人の視点、行政と一緒にやったらどうだろうか、もっといろんな視点を入れてみたらどうか、こういったいろんな角度で、ものごとを見られるようになったのが、この東北の取り組みだと思います。

角度が変われば変化が見えてきます。変化が見えるところに、イノベーション、変化、また大きな変化ということが起きてくると思います。

2つ目のキーワードです。なりわいです。

産業の復興、大変大事なことです。ただ、この「産業」の意味するところの変化が、生まれてきていると、私は見ております。

これまで多くの地域の産業が、外部の資本に頼った産業構造だったと思います。これは、むしろ東北に限ったことではありません。企業の誘致も大事なことですし、雇用も大きく生まれます。しかし、これだけだと、外の事情、外部の論理だけで、地域がどうにでもなってしまう、大変リスクのある状態とも言えます。

今日の発表にありましたように、外部の資本だけには頼らない、地域が主役となって、地域の中で循環をつくっていく仕組みをつくる。一直線の成長のベクトルだけは目指さない、正（せい）の循環を地域の中でつくっていく、そういった取り組みが、東北の中で生まれています。

大震災の後、東北では、「産業」と同じぐらいの頻度で、「なりわい（生業）」という言葉が使われるようになりました。古くて新しい言葉だと思います。

本来の「なりわい」という意味が持っている、生計を立てるための営み、この「営み」というところに、ただ単に仕事をすることではなくて、人と人がつながって、自分の存在価値がそこで認められて、そういったいろんな意味合いが、社会的意味合いが、この「なりわい」というところに生まれてきたのだと思います。経済的価値の新しい側面、と言えると思います。

最後、3つ目です。ふるさとへの誇りです。

ふるさとに対する誇りを思い出し、取り戻すことは、コミュニティ形成のベースとなります。「どうせこの地域は終わりだ」、「何をやってもだめだ」、「うまくいかないのは政治のせい、行政のせい」だと、よく言ってしまいがちですが、これは気持ちが空洞化してしまっている表れだと思います。大災害は人々の気持ちを空洞化させてしまいますけれども、ふるさとの気持ちが、ふるさとへの気持ちが空洞化してしまっただけでは、どんなに立派な事業や予算

がついても、成功するはずがありません。

しかし、東北では、この気持ちの空洞化から、皆さん立ち上がっています。特に大人たちは、先ほどの発表があったように、その誇りを、次の世代の若い人たちに引き継ごうと、一生懸命努力されています。また、その若者たちも、それを一生懸命受けとめて、また自分たちで主体的に動いていこうという動きが出ております。この土台があってこそ、コミュニティは、コミュニティとして成立するのだと思います。

ふるさとへの誇りという土台があって、多様な価値観と新しいなりわいが、地域をつくっていく。その結果、でき上がった地域社会が「復興をなし遂げた」と言えるのではないでしょうか。そして、このような過程を経て、なし遂げた東北の地域の姿は、必ずや日本のほかの地域でも、参考になると私は確信しております。

新しい東北の創造から新しい日本の創造へと向かう実践が、まさに今日の発表、ここに生まれていると思います。私も、引き続き皆さんと一緒に、この実践に参画をして、お手伝いをして参りたいと思います。

本日はご清聴ありがとうございました。（了）